令和6年度　江戸川区立平井東小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎考える子ども　・助け合う子ども　・じょうぶな子ども　・進んで取り組む子ども		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・子供たちが「生き生きとした表情で生活する」学校　～笑顔で登校、笑顔で下校～ ・「人にやさしく　自分につよく　明るく元気な」ひがしっ子 ・児童一人一人の心に寄り添う教師　・自らの資質能力を高めることができる教師
前年度までの本校の現状	成果	・校内研究を通して、自分の考えをもって学習に取り組む児童が増えた。 ・教科担任制や外部講師を招いた授業を展開することで、学習の深まりや豊かな心を育成することができた。 ・教員間による自己研修の時間を設け、進んで資質や能力を高めることができた。	課題	・「特別支援教育」を充実させ、支援を要する児童の支援や指導の体制を見直し、教職員で共通理解をはかる。 ・ICT機器を用いた更なる授業展開の工夫を行う。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・学研による放課後補習教室の実施（各学年週１回、年間150回以上） ・study weekにおけるドリルパークの活用	・放課後補習教室への登録率95%以上 ・ドリルパークの活用率90%以上	B	B	B	・補習教室への登録率は90%以上だった。保護者と連携し、入れ替えがある２学期は95%以上になるよう呼びかける。 ・Study week週間では、全学年85%以上がドリルパークを活用できた。	B	・どの学年でも放課後補習教室を進んで利用している。今後の成果にも期待したい。	B	・補習教室への登録率は90%以上と変わらずである。 ・ドリルパークは全学年80%以上が活用できている。	B	・どの学年でも放課後補習教室やタブレット端末を進んで利用している。今後も期待している。	・東京ベーシックドリル・定着度調査の結果を分析し、児童の事態に応じた授業改善を学期ごとに行う。 ・教科担任制を今後も計画的に行い、児童の指導にあたる。
	○家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取り組みの実施・充実	・毎週水曜日10分間の朝学習の全校実施（高学年におけ、よむYOMUワークシートの活用）	・児童アンケートで80%以上が学習意欲や読解力が高まったと回答	A	B	B	・全学年おいて学習意欲が高まったと回答した児童は80%以上となった。２学期以降は90%以上を目指し、学習活動を工夫していく。	B	・子供たち様々な学習に取り組んでいる。今後も子供たちの意欲を高める学習を期待している。	B	・学習意欲が高まったと回答した児童は、低学年で80%以上、高学年で80%以下となった。 ・よむYOMUワークシートは毎週活用しているが、読解力の高まりを感じる児童は70%程度だった。	B	・取り組みに対して、子供たちの読解力の高まりへの実感が十分とは言えない。改善の余地があるのかもしれない。	・水チャレや学力向上の時間を活用し、一人１台端末を生かし、児童の実態に応じた学習内容を精査する。 ・よむYOMUワークシートの使い方を見直し、継続して指導にあたる。
	○読書科の更なる充実	・探究的学習を全学年学期１単元以上を実施 ・読書郵便の作成	・巡回司書と連携した授業を学期に１単元実施 ・読書郵便を読書月間に合わせて年に２回作成	B	A	A	・全学年、巡回司書と連携した学習を実施。２学期はさらに内容を深めていく。 ・１学期末の「あさがお読書月間」に合わせた読書郵便の作成を全学年実施した。２学期末に２回目の読書郵便を作成する予定である。	A	・図書ボランティアや巡回司書を協力しながら整備された環境になっている。	A	・年間２回の読書月間を設けることにより、児童の読書に対する意欲が高まった。 ・全学年、年間を通して学校図書を利用した探究的な学習に取り組んだ。	A	・充実した取り組みになっている。さらなる読書に対する意欲の高まりを期待している。	・年間を通した読書活動、探究的な学習ができるよう、次年度の学習計画を見直す。 ・巡回司書を活用した指導ができるよう、打ち合わせの時間を確保する。
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・学期に１回のなわ跳び週間の設定 ・校内なわ跳びギネスの実施	・なわ跳び週間への全校児童参加 ・なわ跳びギネスへ3回以上の参加	B	A	A	・学年で実施時間を割り振ったことで、全校児童が参加できた。 ・なわ跳びギネスでは、全校児童が１回以上実施した。２学期と３学期にそれぞれ１回ずつ実施し、年間３回以上の参加を目指す。	A	・なわ跳びギネスはとても面白い取り組みだと感じる。今後も運動に意欲的に参加してほしい。	A	・全校児童がなわ跳び週間に意欲的に取り組んだ。 ・なわとび週間と関連させた年間３回のなわ跳びギネスにすべて参加した児童が90%以上となった。	A	・児童が楽しんで取り組めるように活動が考えられていてよい。	・なわ跳び週間やなわ跳びギネスは次年度も継続して行い、自分自身の記録を超えられるよう活動を工夫する。
	○運動意欲や基礎体力の向上	・業間休みを活用した運動遊びの実施	・火曜日を中心に学期に５回～８回程度実施	B	B	B	・なわ跳び週間を行ったこともあり、運動遊びは全学年４回となった。２学期は７回実施の予定である。	B	・運動をする習慣が身についている。子供の体力向上に努めようとしていることが分かる。	A	・年間で17回の運動遊びを行うことができた。運動遊びを通して運動への意欲が低学年では90%以上と高まった。高学年では70%程度となった。	A	・運動の習慣を身に付けるために良い取り組みだと思う。子供の体力向上につながっていくとよい。	・運動遊びの活動内容を広げ、いろいろな運動に慣れ親しむ環境を整える。 ・体力調査の結果を基に、児童の実態を把握し、傾向と課題を明確にし、体育の学習に活かしていく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員との連携	・特別支援専門員による各学級の支援（適宜）	A	A	A	・特別支援教室専門員を中心に、巡回指導員やSC、心理士等と連携した指導を行うことができた。日本語指導においては、児童の日本語の上達がみられ、指導が適していることが分かる。	A	・SCや専門員が連携して子供たちの様子を見ていることが分かる。	A	・特別支援教室では、専門員や巡回指導員、SCが連携した指導を継続して行うことができた。また、活動しやすい環境を整えることができた。 ・日本語指導では、児童一人一人に合わせた指導を行っている。	A	・特別支援教室では、専門員や巡回指導員、SCとの連携を続けてほしい。日本語指導では、他国語が増えているため、さらに力を入れてほしい。	・特別支援教室に通う児童の学習補填の時間を工夫していく。 ・日本語指導の指導を今後も継続して行う。
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・副籍交流の実施 ・年間指導計画に基づいた特別支援学級との交流及び共同学習の実施	・年に２回の副籍交流 ・３年生を中心に年に５回程度、特別支援学級との交流学習を実施	B	A	B	・２学期以降に行う副籍交流の日程は調整済みである。副籍校と都度連携を取り、調整していく。 ・２学期から特別支援学級との交流学習を年間指導計画に基づいて進めていく予定である。	A	・副籍交流やひまわり学級と共同学習など、さまざまな交流が設けられていてよい。	A	・副籍交流においては、年間を通して２回実施することができた。今後も継続して行う予定である。 ・３学期に特別支援学級と３年生の交流学習を行うことができた。	A	・特別支援学級と各学年の交流を増やしていってほしい。	・年度当初に副籍校と確実な日程調整を行う。学級担任だけでなく、学年や特別支援コーディネーターが連携して交流を行うようにする。
不登校・いじめ対応の充実	○hyper-QUの活用	・QUテストによる児童の実態把握と指導の推進 ・QUテストの有効的な活用方法の共通理解	・１学期中にQUテストを実施 ・OJTによる活用方法の研修	B	A	B	・全学年、１学期にQUテストを実施した。２学期はその結果をもとに各学級担任が学級経営や児童への指導に生かしていく。 ・QU活用法についてのOJTを２学期に実施する予定である。	B	・さまざまな環境の児童が増えてきたように思う。たくさんの先生方の目で見守ってほしい。	A	・QUの活用の仕方について全職員で共有し、それぞれの学級の状況を把握することができた。２学期以降、その結果を学級経営や児童支援に生かすことができている。	A	・今年度のQUテストの結果を来年度も生かし、クラス編成などを実施してほしい。	・QUの活用方法について年度当初に職員全体で共有する時間を設ける。 ・生活指導部を中心にQUの結果を共有する時間を設け、学級に応じた対応の仕方を共有する。
	○不登校対策の実施・充実	・いじめや不登校の早期発見 ・解消件数の増加（早期解消を目指す）	・年３回のアンケートの実施 ・学期１度の生活指導全体会の実施	B	B	B	・１学期にアンケートを実施し、不登校やいじめの早期発見に努めた。 ・生活指導全体会を通して、個別に配慮が必要な児童への対応について全職員で共通理解することができた。今後の指導に生かしていく。	B	・児童にとって安心して生活できる環境を今後も整えていってほしい。	B	・学期ごとに１度、年間３回の児童アンケートを実施した。アンケートによる児童の様子や問題について共通理解・情報交換を行う場を設定した。（生活指導夕会）	B	・アンケートをもとに、いじめや不登校の早期発見・早期解決に引き続き努めてほしい。	・いじめm殺然防止と早期対応の校内体制を継続していく。いじめや事故等緊急な対応について、どの教員も同じ行動ができるよう、フローチャートを作成する。
	○教育相談の強化	・SC、SSWとの連携強化	・特別支援校内委員会の月１回の実施	A	A	A	・月１回、特別支援コーディネーターを中心に特別支援校内委員会を実施している。個別に配慮が必要な児童への対応について都度連携している。	A	・児童一人ひとりにきめ細かくみてもらい、感謝している。	A	・特別支援校内委員会を月に１回設けることができた。個別に配慮が必要な児童への対応について情報を交換することができた。	A	・児童や保護者の相談にのっていただいて、感謝している。	・特別支援校内委員会の実施を今後も継続していく。個別配慮が必要な児童への支援について情報共有ができる環境を整えていく。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	○自校の取り組みの積極的な発信	・学校ホームページの充実、学校公開の実施・充実	・各学年、月に１回程度、行事を中心に配信	B	A	B	・学年によって配信の頻度に差がある。今後は、担当を決め、月に１回程度配信できるようにする。また、行事担当が配信をするよう周知し、呼びかけていく。	B	・学校ホームページは頻繁に更新されており、児童の様子がよく分かる。今後も継続してほしい。	B	・校長を中心に行事における児童の様子を配信することができた。 ・ホームページを利用して学校だよりや学年だよりを掲載した。	A	・ホームページがよく更新されている。今後も見やすいホームページを意識して継続してほしい。	・校長による学校ホームページの更新は今後も継続し、地域や保護者の方に情報を発信する。 ・学年主任や各分掌長を中心に月に１回程度を目安にホームページを更新する。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・年４回の土曜公開や各行事後にアンケートを実施	B	A	B	・Formsを使用して学校公開や学校行事後にアンケートを実施した。今後はアンケートの回答数が増加するようtetoruにて保護者に呼びかけていく。	B	・Formsを用いたことで回答しやすくなったと思う。一方で、回答数を増やしてほしい。	A	・保護者向けのアンケートはFormsを使用して行うことができた。回答数を増やすことができるように今後も呼びかけていく。	A	・tetoruを利用してアンケートを実施したことにより、保護者は便利になったと思う。今後も続けてほしい。	・保護者向けのアンケートはFormsを使用して今後も行う。回答数が増やせるようtetoruで周知する。
特色ある教育の展開	○環境教育の推進	・年間計画に基づく荒川環境学習、外部講師の活用	・学期に１度程度、４年生を中心に荒川学習を実施	B	A	A	・１学期には荒川学習（干潟の環境・生き物）を１回実施することができた。２学期は荒川の草原の生き物、３学期にはクリーンエイドについて学習する予定である。	A	・外部講師を招いて学ぶことができる機会があることはとてもよい。	A	・４年生を中心に荒川学習に取り組んだ。学校周辺の環境に対して意欲をもって学習することができた。	A	・専門知識を活かし、身近な環境を大切にする態度を養う機会がもてている。	・総合的な学習の時間と関連させ、SDG'Sを意識した学習の年間計画を作成する。
	○働き方改革の推進	・定時退勤日の設定	・区小教研の日、それ以外に月１回程度の定時退勤日の設定	B	A	B	・区小教研の日は定時退勤日にし、実施することができた。また、月に１回程度、水曜日に定時退勤日を設けている。２学期以降も実施する予定である。	B	・定時退勤日の設定はとてもよい。意識して今後も継続してほしい。	A	・区小教研の日の定時退勤日は90%以上の職員が実施することができた。 ・年間５回程度、会議を設けない日を設定することで、定時退勤ができ且つ効率的に学級業務を行うことができた。	A	・定時退勤日や会議を設けない日の設定はよい。今後もより一層働き方改革を推進していくとよい。	・定時退勤日を年度当初に周知し、呼びかけていく。 ・会議内容を精査し、定時退勤ができる環境を整える。
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・年に２回程度の授業公開 ・年に１０回程度のOJTの活用	B	A	B	・校内研究や自己申告における授業を互いに公開し、自己研鑽に励んでいる。 ・OJTは計画通りに進められている。自分たちで学びたい内容を精査し、現在２回終了している。２学期は４回行う予定である。	B	・互いに学び合おうとする機会があることはとてもよい。子供たちの教育に生かしてほしい。	A	・若手教員を中心に年間９回のOJTを設けた。計画通り進めることができ、自分たちで学び合う姿勢を身に付けている。	A	・OJTを通して様々な指導法や対応法を身に付け、児童に還元してほしい。	・年度当初に若手教員が中心となり、教務主任と相談しながら計画を立てる。 ・内容の変更について柔軟に対応できるよう、都度、計画を見直す。